

＜今日の説教のポイント 出エジプト記 24 章、32 章＞

### 1 主なる神への信徒を誓った民がなぜすぐ不安に陥ったのか？

24 章はこれまでの総まとめ、すなわち、主なる神様によってエジプトから助け出された民が神様への信徒を告白して喜びに満ちた歩みの開始を告げる章です。しかし、そのすぐ後に彼らが「金の子牛の像」を造って拝むという出来事が起こったのです (32 章)。一体、どうしてそんなことになったのでしょうか？

### 2 不安に駆られる中で判明する、真の信仰と人間の宗教の違い

聖書は、「モーセが山からなかなか降りて来なかったから」(32:1)と記しています。モーセがいなくて不安になったのでしょうか、「我々に先立って進む神々を造って下さい」(1)と言い出したのは妙ですね。

第一に、人間が(ここではアロンが)全能なる「神を造る」ことはできません。神様をその程度で考えていたからモーセがいなくなると不安になるのです。モーセが大事なのか、神様が大事なのか、まだはっきり分かっていない信仰ですね。カール・バルトはヒトラーになびくキリスト者の姿を見てこの問題を深く捉え、「真の信仰と人間の宗教の違い」を指摘しました。そして、「私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:20 後半)、と言って下さるイエス・キリストこそが唯一の真の神様であると告白する信仰の大事さを訴えました(バルメン宣言 1934年)。

第二に、この信仰を身につけたときにこそ、起こって来る様々な不安に打ち勝ち、「我々に先立って進む神」が示される道を歩むことができるのです。この信仰を身につける方法も主イエスはちゃんと教えて下さっています。洗礼を受け(マタイ 28:19)、聖書を学び続けなさい(マタイ 28:20 前半)と。その時、主がいつも共にいて下さっていることが確信できるようになるのです(マタイ 28:20 後半)。

### 3 25-31 章の幕屋建設の指示 — 神様を大事に考えるからこそ！

聖書は、24 章と 32 章の間に幕屋の建設とそれに伴う事柄についての決め事を詳しく記しています。人々が不安の中でばたばたと一夜のうちに行った行為と比較すると、その意味が見えてきます。神様に向かうことをどれだけ大事に考えているか、そのためにかける時間と労力の違いがそこに現われています。今の私たちはどうでしょうか？ 自分のしたいことを先行させ、自分のために神様を利用していないか、今一度考えるように問いかけられているのではないのでしょうか。